

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 東京 報告書



2018年12月1日、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 東京（以下、全国キャラバン in 東京）が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。東京都との共催で、会場には140人が集まり活発な議論が行われました。全国キャラバン in 東京は全国キャラバン30会場目（前身の交流会・意見交換会含む）で、今回は全国キャラバン事業の中間実施報告も兼ねて行われました。最後には小池百合子・東京都知事も会場に駆けつけていただきました。

冒頭、小河代表理事の挨拶に続き、子どもの貧困対策を推進するための専任職員を配置し、施策の周知強化や相談支援の充実などに取り組む自治体への支援を行う東京都の「子供の貧困対策支援事業」と、荒川区・江戸川区・日野市における活用事例について紹介。荒川区のあらかわ子ども応援ネットワーク、ボランティアが出向き食事を提供する江戸川区のおうち食堂、包括的にさまざまな相談を受ける日野市のセーフティネットコールセンターなど都内の子どもや家庭につながるための取り組みが報告されました。



続いて、「都市部の子ども・若者支援に求められるものとは」というテーマで都内の実践者らによるディスカッションが行われました。荒井佑介・PIECES副代表、栗林知絵子・豊島WAKUWAKUネットワーク理事長、森山誉恵・3keys代表理事に加え、工藤鞠子・あすのば学生理事と村尾政樹・同事務局長も一緒に登壇しました。

PIECESのコミュニティユースワーカー実践から子ども・若者の趣味、関心に沿ってアプローチをする非専門職としての関係性構築や、豊島WAKUWAKUネットワークの子ども食堂にとどまらず子どものSOSをキャッチできる地域づくりの視点などが議論されたほか、3keys「10代のための相談窓口サイトMe x（ミークス）」には『死にたい』というワード検索からリーチす

る子ども・若者が多く、工藤さんは「いろいろな生きづらさや曖昧なしんどさが“死にたい”の一言に集約されているのでは」と指摘しました。



休憩を挟み、後半は全国キャラバン中間実施報告が行われ、担当の久富職員・増川職員・柳瀬職員と各地の学生世代から、これまで開催されてきた取り組みの成果と課題について報告。残りの全国キャラバンも地域の実情に寄り添い、各地の支援者や子ども・若者の声を聴きながら持続・発展可能な支援体制を構築していくことが求められています。参加者全体での感想共有・質疑応答・意見交換の後、会場には小池百合子・東京都知事が会場に駆けつけ「これからの皆さまの活動にエールを送ります」と共催のごあいさつをいただきました。

参加者からは「自分が見えていなかったもの、本当に必要としている人への支援方法を知ることができました。いろいろな団体と連携をとってつながり、必要としている人へ支援を届けていきたい（20代・男性）」、「私自身が母子家庭で育ってきた環境ですが、また今の子どもたちの貧困状態とは状況が違って、ただの“貧困”というだけでなく本当の解決策は地域全体の対策が必要だということを改めて実感しました（40代・女性）」、「ディスカッションで3key森山さんの意見に共感します。協働や民間の力の活用という言葉は、響きは良いですが、社会の仕組みから考えられるような学びの機会が関わる大人にも当事者性ある子どもにも必要なのかもと思いました（50代）」、「江戸川区のおうち食堂、ごはん便の取り組みなど行政の取り組みについて感銘を受けました。また、PIECESの活動について、ゲームなどで子どもや若者とつながれることは今後の社会に必要な取り組みだと思いました。孤立しない地域づくりの大切さを知り、自分に何ができるか考えながら貢献できればと思います（30代・女性）」などの感想をいただきました。

全国キャラバン in 東京をきっかけに、今後も東京都内の子どもの力にもなれるよう現地のみなさまとつながっていければ幸いです。ご参加いただいたみなさま、開催にあたり深いご理解と温かいご支援・ご協力をいただいたみなさまに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 東京】

日時：2018年12月1日（土）13時45分～16時45分

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

主催：公益財団法人あすのば

共催：東京都

後援：内閣府、子どもの貧困対策 東京議員懇談会

助成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：140人

